

履歴

原籍 麻布區麻布第
回番地

鹿児島縣草族

旧名 勝章 男爵 西 德二郎

薩摩國鹿児島新屋敷於テ弘化四末七月廿音生

父 西 肇右門 亡

母 加納ヒロ口 云

妻 峰一

明治三年四月廿八日

任大學サ全長

大學

令 年六月

御用有之魯國、差遣候事

辨

官

今般魯國へ被差遣候付ハ都邦ノ事ニモ有之殊

樞密院

ニ樺太地雖居ニモ相成居候ハ彼國、形勢情態ヲ
モ萬ト御裸知被過度御趣意ヲ奉體シ勉勵盡力
可致幸

令 年七月

出發

令 四年

文部省留學生トナリ同省ヨリ學費ヲ受ケ其翌五年ノ秋ヨリペートルブルガ大學校ニ入テ法政學ヲ修ム

令 六年十二月

海外留學被免假事

文部省

爾来自費ヲ以留學し明治九年三至テ法政兩學子課ヲ
終フ

全九年三月十四日

在仙國公使館附書記見習申付候事

外務省

全 年五月

仙國。ハリスニ赴ク

全十年四月七日

書記一等見習申付候事

全

全十一年二月十六日

往外務二等書記官

太政官

露國在勤被仰付候事

全

全 年

露國三赴キ臨時代理公使、任就ク

全 年九月七日

各國電信聯約加入ノ為其宣告書記名調印
委任ヲ受ク

外務省

全十二年十二月十八日

レ叙從六位

全十三年

レ	中亞細亞旅行ノ許可ヲ得テ出發翌年夏帰朝 至十四年六月八日
レ	住太政官権大書記官
レ	軍事部勤務被仰付候事 太政官
レ	參謀本部御用掛被仰付候事 上
レ	中亞細亞紀事編纂委任ヲ受ク 參謀本部
全	年七月十六日
レ	露西亞國皇帝陛下ヨリ贈賜シタル神聖アンナ第二等 勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス
全	年八月三十日
レ	叙正六位
全	十五年六月二日
レ	住太政官大書記官兼宮内大書記官
レ	二品熾仁親王露國へ被差遣候ニ付隨行被仰付候事 太政官
全	年三月十七日
レ	叙勲五等
後	年五月十八日
レ	熾仁親王ニ隨テ出發 至年八月十七日

前

レ
叙位五位

主十六年二月二日

帰朝

主七年五月十五日

レ
伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタルコンシングドトレテル
オルヂネデーラコロンナデイタリヤ第三等勲章ヲ受領
シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

レ
露西亞國皇帝陛下ヨリ贈與シタル神聖スタニスラ
ス第二等勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

樞院

レ
澳地利兼洪葛利國皇帝陛下ヨリ贈與シタルフラン
ツジヨセフコンサデアル第一等勲章ヲ受領シ及ヒ

佩用スルヲ允許ス

樞院

レ
獨逸國皇帝陛下ヨリ贈與シタルローネン第二等勳
章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

白日義皇帝陛下ヨリ贈與シタルノホオール第三
等勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

主七年十二月二日

下賜

賞勲局

主七年五月十七日

十七

中亞細亞全國ヲ陸軍省、獻納、賞モニテ木盃三個

۷۶

		御用有之北海道、被差遣候事	太政官
全	年六月十六日		
出	赴薩全年九月十日歸京		
三	十八年十二月廿二日		
改	太政官稱內閣		
全	年十二月廿六日		
依	願免本官相宮內大書記官	内	閣
全	十九年一月六日		
元	太政官大書記官相職心得一旨達アリ		
全	年一月十一日		
玄	諱本部御用掛萬勤被免	内	閣
全	年六月三十日		
任	特命全權公使		
叙	勅任官一等		
年	俸二千三百兩下賜	内	閣
三	年十月二十日		
叙	從四位		
全	年二十一年一月六日		
露	西亞國總督在勤被仰付	内	閣
瑞	典那威國駐劄公使萬勤被仰付	上	

レ下級年俸下賜

外務省

ニ年三月廿五日

レ叙從三位

ニ年四月二日

レ御用有之本月三十日迄滯京ヲ命又

外務大臣

ニ年四月十九日

レ妻娘帝賈菜貨八百磅下賜

上

ニ年四月三十日

レ叙勳四等勲章、綬

ニ年四月廿七日

レ叙勳三等勲章、綬

ニ年四月三十日

樞

密

院

レ出發

ニ年二月廿二日

レ露京聖彼得斯堡府ニ於テ第四萬國監獄會議開設
ニ付委員トシテ參列被仰付

内

閣

レ露國萬國監獄博覽會委員長被仰付

上

ニ年二月廿二日

レ露國萬國監獄博覽會委員長ノ職ヲ奉シ事務

レ	勵勵ニ付其賞トシテ別紙目録ノ通リ下賜ス
レ	申鑑 刺繡卓被 壱枚
レ	定公使館領事館費用條例
レ	金年三月三十一日
レ	金年四月一日
レ	下級俸下賜
レ	官軍俸給令ヲ廢シ俸給制ニ改ム
レ	官軍俸給令ヲ廢シ俸給制ニ改ム
レ	賜一級俸
レ	内閣
レ	金年三月十二日
レ	内閣
レ	賜暇月朝
レ	内閣
レ	金年五月六月十一日
レ	内閣
レ	御用有之端弓ノ命又
レ	外務大臣
レ	金年十一月十五日
レ	内閣
レ	叙勳二等賜瑞宝章
レ	内閣
レ	金年二月二十日
レ	内閣
レ	申鑑文部省等級表
レ	申鑑
レ	金廿六年一月五日
レ	内閣
レ	着任
レ	金廿七年二月四日

露國皇帝アレキサンドル第三世陛下葬儀ノ節
特派大使トシテ會葬被仰付 内閣

三十一年十一月十九日

親仕官ヲ以テ待遇セラル

上

三十一年七八月二十日

後依勲功特授男爵

獨旨ヲ以テ華族ニ被列

宮内省

叙勲一等授瑞室章

明治廿七年事件ノ功三依リ勲一等瑞室章ヲ

授ケ賜フ

樞密院

三十一年六月十七日

歸朝ノ命入 外務省

三十一年八月七日

出發

三十一年十月十日

帰朝

三十一年十月廿三日

瑞典國桂極星第一等勳章ヲ壹鎖ニ及佩用スルヲ允
許ス

三十一年三月四日

露國聖比德堡府駐劄被免

内閣上

瑞典諾威國駐劄公使並被免

内閣上

三年三月十八日

レ
任樞密顧問官

全年十一月六日

レ
任外務大臣

同年十一月三十日

レ
敍正三位

三十一年六月三十日

レ
依頼免本官

内閣
樞密院

三十二年三月二日

レ
奥地利洪牙利國皇帝陛下ヨリ贈与シタルコグランシロワード、ド、ロルドルード、クーロンヌ、ド、フェール勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス 賞典高

同年四月十八日

レ
露西亞國皇帝陛下ヨリ贈与シタル白鷺大綬章
ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス 同上

同年十月十一日

レ
任特命全權公使

内閣

レ
叙高等官一等

内閣

親仕官ヲ以テ待遇セラル

內
閣

賜一級俸

同上

同年十月廿三日

卷之三

法師の共和国政府ヨリ贈与ニタル一ケラン、ラアセシエード、ロルドル、ナショナル、ド、ラ、レジヨンドール、郵章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス。　　賞勅焉

同上十二月廿七日

授祖日大綏章

卷之三

清風駐劄被免

內編

待命中本傳三之一

外務省

丙午八月三十一日

100

明治三十二年清國軍之降ニキノ戰務ヲ守リ
杆銃不怠其功ニ依リ旭日大綬章ニ屬スル年金

七百四十四

實錄

行樞參顧潤宣

三十五年五月
丁巳

高亨補復審核於泮宮

西門

283

Digitized by srujanika@gmail.com